

5・6年 単元名「那智勝浦町の特産物について知ろう」(5時間)

1. 単元設定の理由

我が校のある那智勝浦町には、多種多様な海の生き物が生息している。昔から海の幸に恵まれ、「生マグロ」の水揚げは特に有名である。そのマグロに関する商品も、地域の特産物として知られている。

そこで、マグロを使った特産物がどのように作られているのか、どこで売られているのか、またそこに関わる人々の苦労などについて、体験的な活動を交えながら学習していきたいと考えている。そして地域の特産物であるマグロを調理する技能を身につけ、地域の特産物を大切にしようとする児童を育成していきたい。

2. 単元目標

地域の特産物であるマグロを調理する技能を身につける。

干物や缶詰にして保存性の便利さに気づく。

3. 単元の評価規準

干物・缶詰づくりを通して、地域の特産物について進んで学ぼうとしている。(関心・意欲・態度)

地域の特産物であるマグロを調理することができる。(技能)

4. 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	干物・缶詰作りの事前指導をする。	包丁などの危険なものを使用するため、安全面でのことを徹底して指導する。
2	勝浦漁港(勝浦漁業共同組合)にいき、干物・缶詰作りの体験活動をする。	施設のスタッフのいうことや見本の動きを確認させる。
3		実際に自作のものを持って帰れることを話し、意欲的な活動を促す。
4		
5	学習をふりかえり、実際につくってみて思ったこと、初めて知ったことなどを感想文で表す。	マグロをさばいたことなど、初めての体験だったことを再度促す。

5. 具体的な学習活動の成果

・第1時 事前学習

児童は、実際に干物・缶詰をつくることをしり、学習意欲が高まった。また、生ものをさわると調理をするということで衛生面での意識も高まった。

・第2時～第4時 勝浦漁港(勝浦漁業協同組合)での干物・缶詰づくり

児童は皆集中し、一生懸命つくっていた。スタッフさんのお話も良く聞き、態度や手際の良さがとても良かった。

たと驚いていた。包丁の使い方や調味料のはかり方もしっかりできていた。地元の特産物に親しむことと、調理する技能を身につけることができた。

また、衛生面ではこまめに手洗いをさせ、気を配った。

	<p>5年生</p> <p>マグロのブロックの血合いや皮を取り除き、きれいにした後、薄く切り分けます。</p>	<p>6年生</p> <p>マグロをクリーニングします。(血合い・骨・ウロコなどを取り除く。)そのマグロを約1cm角のサイコロ状にします。</p>	
	<p>薄口醤油、濃口醤油、みりん、砂糖を合わせた調味液に、10分間漬けた後、網の上に並べます。</p>	<p>マグロの身を(130g)缶に詰めます。</p>	
	<p>その後乾燥機に入れ、冷風で40分程乾燥させます。</p>	<p>塩1包み(1.5g)を入れます。 綿実油(60g~70g)を入れます。</p>	
	<p>できあがったマグロの干物を、それぞれ自分で袋詰めしていきます。機械にいれ、真空パックにしてできあがりです。</p>	<p>缶詰機で缶にフタをします。</p>	
	<p>空き時間でつくっておいたシールを貼り、完成です。</p>		

・第5時

学習をふりかえり、見てきたことを自分の感想をしっかり書けていた。干物ができる工程や味付け、調理といったものを理解できた。自分たちの手元に届くまでの流れを実際に体験し、一つの品を作り出した達成感を味わえた。

《5.6年生の感想の紹介》

・干物作り体験を初めて体験しました。家に帰って、夕ご飯に食べました。良く味がしみていておいしかったです。本当に、良い体験になりました。

・ぼくは、今日マグロの干物を作って、干物をこうやって作るのを初めて知りました。とくに、マグロを切るところが少し難しかったです。ラベル作りも楽しかったです。一番楽しかったのはまぐろをパックにつめたところでした。

・真空パックにする機械は、すごい機械でした。干物作りという貴重な体験ができて良かったです。

・一番びっくりしたのは、一人分のマグロのサイズです。大きくて、びっくりしました。包丁でマグロを切るのは、少し難しかったです。今回の体験をして、これからも海を大切にしたいと思いました。

・干物作りができて良かったと思います。最初マグロの干物にするときはうすくちしょうゆとこいくちしょうゆを30ccずついれるのが不思議に思いました。

・マグロを素手でさわったのとマグロを切ったのも、初めてでした。マグロを切るときは、ちょっときんちょうしました。空気が抜けるところがすごいなあと思いました。

・味付けも、切るのも自分でするなんて思いませんでした。むずかしかったです、とても良い経験になりました。予想していたのとは違ったけれど、おいしそうでした。

6. まとめ

地元の特産物であるマグロを調理することで、親しみをこめて調理の工程を楽しめたことと、干物にするこ
とでの保存性の便利さにも気づくことができた。

5年 単元名「ウミガメを調べ、育てよう」(7時間)

1. 単元設定の理由

- ・海の自然に親しみ、進んで海に関わろうとする児童を育成するため。

2. 単元目標

- ・ウミガメの「飼育・調査」の学習を通して、海の自然について理解を深め、進んで環境を守ろうとする態度を育てる。

3. 単元の評価規準

【関】海ガメの飼育・観察に積極的に取り組もうとしている。

【技】海ガメの飼育・観察した経験をまとめ、発表することができる。

4. 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1 ～ 4	・ウミガメの種類や生息場所などを調べる。	・ウミガメを5年生が毎年育てていることを再確認させる。
5 ・ 6	・玉の浦リップルズクラブの方のお話を聞き、ウミガメの生態などについて知る。	・活動後に振り返りを書くことを伝え、それをふまえた上で聞くよう指導する。
7	・振り返りを書く。	・初めて知ったこと、驚いたこと、これから調べたいと思ったこと等を書くよう指導する。
外部連携 / 教材等 玉の浦リップルズクラブ/昨年までのウミガメ学習の写真		

5. 具体的な学習活動の成果

- ・第1～4時 インターネットや本からウミガメについて調べる。

ウミガメの生態や種類、生息場所など自分たちで興味のでたことを調べた。

実際に昨年までウミガメの放流などでウミガメに関わっていたためイメージがしやすく、いろいろなことを調べようとする事ができた。そしてウミガメについての興味関心をより高めることができた。

・第5．6時 玉の浦リップルズクラブの方から(湊さん)のお話

ウミガメの生態についての話

・カメの先祖や進化の過程

最古のカメが2億2000万年前ほどに生息していた。ウミガメの先祖が1億1000万年にもさかのぼることが分かった。

・ウミガメの種類

自分たちが毎年放流しているウミガメがアカウミガメであることが分かった。

他にもアオウミガメ・タイマイ・オサガメ・ヒメウミガメ・ケンブヒメウミガメ・ヒラタウミガメ・クロウミガメなどたくさんの種類のウミガメがいることが分かった。

さらに、アカウミガメやアオウミガメやタイマイの見分け方を知った。

・ウミガメの産卵行動

上陸 ボディピット 穴掘り 産卵 穴埋め カモフラージュ 帰海という流れである事を教えてもらった。

ボディピット・・・ 穴掘に先立ち、体が隠れる程度の穴を掘る行動。アカウミガメ、ヒラタウミガメ、タイマイ、ヒメウミガメでは比較的浅く、アオウミガメ、オサガメでは深い穴を作る。

カモフラージュ・・・前肢も使って前方の砂を後ろへ掃き飛ばし、ボディピットを埋めていくこと。

その他にたまごの形やウミガメがどういう回遊をしているのかなども資料を見ながら学んだ。

ウミガメの映像による紹介

実際にウミガメのボディピットやカモフラージュなどをしている姿、泳いでいる姿、陸を歩いている姿など貴重な映像を見せてもらった。初めて見る児童が多く、とても驚いていた。



・第7時 振り返りを書く

これからウミガメを育てていくにあたり、とても前向きな感想がたくさんあった。「ウミガメがさんらんしに来てくれるのが楽しみです。」や「はやくウミガメが来てほしい。」などウミガメに対する興味関心がよりいっそう強まった。

まとめ

今回の学習で児童は、毎年放流していた海ガメを実際に産卵からふ化、その後放流までの間育てることにより、海ガメに関する専門的な知識を深めることができた。そして海ガメに対する興味もますます増したように思う。今後は、海ガメの生存に関わる問題など大きな枠組みで考えていき、さらに思考・知識・理解を深めていく必要もあると考える。

5・6年 単元名「地元に住んでいる海の珍しい生き物を知ろう」

1．単元設定の理由

- ・海の自然に親しみ、進んで海に関わろうとする児童を育成するため。
- ・地元、紀伊半島沿岸部の海に住んでいる珍しい生き物を知り、地元の海に関心を持たせるため。

2．単元目標

- ・紀南の美しい海について知り、海の自然に親しみ、海の生き物等について関心を持ち、より紀南の良さに気づくことができる。

3．単元の評価規準

- ・海の生き物や自然に関心を持ち、ゲストティーチャーの話に感想を持とうとする。(関)

4．単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	南紀シーマンズクラブのダイバーさんから紀南の海に住んでいるたくさんの珍しい生き物についての話を聞く。 <ul style="list-style-type: none"> ・アカクラゲの赤ちゃんなど ・たこの威嚇など ・エビのクリーニングなど ・ミシンベニハゼとスナダコなど ・アオリイカの産卵など 	<ul style="list-style-type: none"> ・活動後に振り返りを書くことを伝え、それをふまえた上で聞くよう指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・振り返りの感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・初めて知ったこと、驚いたこと、これから調べたいと思ったこと等を書くよう指導する。
外部連携 / 教材等 南紀シーマンズクラブ		

5．具体的な学習活動の成果

- ・第1時 南紀シーマンズクラブのダイバーさんからのお話
 - 紀南の海に住むたくさんの生き物
 - ・紀伊半島沿岸の海では、日本で一番多くの生物が住んでいて、その数、魚類だけでも1100種類以上。そしてその中でも南の熱帯の海に住む生物たちも



現れるということを知り、とても驚いていた。

紀南の海の珍しい生物の様子

・紀南の海をダイビングした時に撮った様々な生物の写真や動画を見せてもらった。児童たちは、エビが他の魚の口の中をそうじしている「クリーニング」という現象を見て、特に驚いていた。また牛乳瓶の中にたこと魚が共存している姿を見ても驚いていた。



ダイビングの用具の紹介

ダイビングをする時の用具を紹介してもらった。遊ぶときに使ったことのあるシュノーケリングやウェットスーツや酸素ボンベなどを実際に触らせてもらった。ウェットスーツが意外に重かったり、酸素ボンベも持つのがしんどいくらい重いことに驚いていた。



・第2時 振り返りを書く

「実際に酸素ボンベやウェットスーツなどに触れたことが印象に残っている」や「珍しい生物が近くの海にもいて驚いた」などの感想があり、紀南の海に住む多くの生物に興味を持ち、海のことをしれて良かったという感想がたくさんあった。

5年生

- ・初めて知ったことは、魚の口の中をエビがクリーニングしているということです。魚たちも人間みたいに口をきれいにしているんだなと感じました。
- ・たこや魚が人の捨てたビンに入っていて、捨てるのは良くないけど魚たちがうまく活用しているなと思いました。
- ・これからも、この海を大切にしていきたいです。
- ・イカが変そうしていたところがおもしろかったです。私は、大人になったら、海にもぐって、いろいろな魚を見たいと思いました。

- ・私が、一番かわいいと思ったのは、自分で自分に砂をかける魚です。そんなにいろいろな魚がいる近くの海を大切にしたいと思います。

6年生

- ・今日、串本の海についてくわしく教えてもらって、串本の海にはあんなにきれいで、おもしろくて、変わった魚がいることを初めて知りました。
- ・ぼくが1番きれいだと思ったのは、串本の海に広がるサンゴです。サンゴがあんなに広くきれいだということが初めて知りました。
- ・また、ぼくが1番気に入った魚は、砂の中にもぐるといいうイカです。イカの中に泳がずに歩くものもいたというのは、すごく興味深かったです。
- ・今日は、南紀シーマンズクラブのみなさんに海の中のことを教えてもらったので、大人になったらダイビングをしてみたいと思いました。

まとめ

今回の学習で児童は、紀南にはたくさんの珍しい生き物がいるということを聞き、今まで以上に地元の海への興味関心を膨らませた。また実際にダイビング用具に触れることによってさらに海への関心が強まった気がする。今回出てきた生物以外にも珍しい生物はまだまだいるため、そういった類いのものも自主的に調べさせていきたい。

5・6年 単元名「海洋調査船を調査しよう」(2時間)

1. 単元設定の理由

・ウミガメについて学習していく中で、海の生物に興味をもつ児童も多くなってきた。今回、海洋調査船の船長の仕事をしている漁野さんに来校いただく機会がとれたので、海洋調査船についてや、深海の様子、深海に住む生物たちなどについて、話をさせていただこうと考えた。

2. 単元目標

- ・海洋調査船で働く人々の仕事について知る。
- ・深海に住む生物に興味をもつ。



3. 単元の評価規準

・海で働く人や海の生き物に関心をもとうとしている。(関)

4. 単元の指導計画

時	学習活動	指導上の留意点
1	<ul style="list-style-type: none"> ・ JAMSTEC の方から、海洋調査船についての話を聞く。 ・ 様々な海洋生物について ・ 海洋調査船で働く人たちについて 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動後に振り返りを書くことを伝え、それをふまえた上で聞くよう指導する。
2	<ul style="list-style-type: none"> ・ 振り返りの感想を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 初めて知ったこと、驚いたこと、これから調べたいと思ったこと等を書くよう指導する。
外部連携 / 教材等 JAMSTEC 海洋調査船船長		

5. 具体的な学習活動、成果

- ・ 第1時 JAMSTEC の方からのお話
 - 海洋調査船の乗組員さんたちの仕事について
 - ・ 今の仕事に至るまでの経緯
 - ・ それぞれの担当、役割
 - ・ これまでの経験

海洋調査船について

- ・ 有人潜水調査船「しんかい6500」
- ・ 潜水艇の仕組み
- ・ これまでの経験
- ・ 深海の様子、深海に住む生物

JAMSTECについて

- ・ ビデオ閲覧

- ・ 第2時 振り返りを書く



5年生

・ ぼくは船が好きだから、すごく楽しかったです。ぼくは、船で地震を調べる機械を置きに行ったり、海底の資源を調査しているなんて、あまりしりませんでした。深海の魚も好きで、「調べるのは命がけ」というのはこわいけど、楽しそうだなと思いました。ちょっと将来そういうことをしてみたいと思いました。

・ 海にはまだまだわからないこともあるし、おもしろい生物もいて、楽しいなと思いました。船もかっこよくて、写真に写っていた人たちみんな、仕事をがんばっていて、すごいなと思いました。それに、海が好きなんだなと思いました。

6年生

・ 「しんかい6500」という調査船のことは、初めて知りました。海底地震計を設置した話もおもしろかったです。水深1万メートルより深いところへ行くのはすごいなと思いました。行けたらいいなと思いました。そして、海にいろんな菌があると初めて知りました。

・ 深海のことや、海のことについて、くわしく知ることができました。漁野さんが、深海と海について教えてくれたので、初めて海に興味をもちました。僕が一番興味をもったところは、深海には変わった魚や変わった物が落ちているという所です。僕は始め、漁野さんが深海には変わった金属が落ちていると言ったときに、「そんなものは何にも使えないのではないか。」と思いました。でも、その金属がスマートフォン等に使われていると聞いておどろきました。それに、海底に住んでいる生き物が、近い未来、薬として使われるかも知れないと聞いて、さらにおどろきました。

まとめ

有人潜水調査船「しんかい6500」についての話や、深海の様子についての話が印象深かったようである。海洋調査船については、以前「地球号」が新宮港に寄港した際に乗ったことがあるという児童もいたが、知らない児童が多かった。今回海洋調査船について知ることができ、児童たちはよるこんでいた。特に深海の様子に興味をもつことができたようである。今後も、深海にいる生物についての調べ学習をするなど、学習を広げていければと考える。